

〔資料〕

校註・外記補任

仁和三年以前（二）

笠井純一

（承和）
同九年

大外記從五位下山田古嗣

外從五位下菅野朝臣繼門^①
正七叙
十三任和泉守^②

山代氏益^③
二月十日轉^④

少外記名草安成^⑤

賀茂弟峯^⑥
二月十日任 元少内記^④

同十年^{甲子}^⑥

大外記從五位下山代宿禰氏益^⑦
正月十一日叙位^⑧
同日任豐前介^⑨

從五位下山田古嗣

名草安成^⑩
正月十二日轉^⑪
元少^⑫

少外記賀茂弟峯^⑬

忠宗宗主^⑭
二月十日任^⑮
元

脚註

① 統後紀、正月壬寅07、正六位上から外從五位下に昇叙。

② 統後紀、正月戊申13に任官記事あるも、四位以上のみ載録。なお和泉守は、同、承和十年十一月庚子16「任校畿内田使。

……和泉守外從五位下菅野朝臣繼門為（河内和泉）次官」。

③ 符宣抄、五月廿六日・九月廿二日右大臣宣の奉者（大外記山代氏益）。なお尊經閣本は「山田氏益」につくるが、底本の校訂に従った。

④ 統後紀、二月乙亥10、任官記事あり。但し四位一名を記す他は「云々」と略す。

⑤ 符宣抄、九月十七日大納言藤原卿（良房）宣の奉者（少外記名草安成）。

⑥ 承和十年の干支は「癸亥」。甲子は承和十一年。

⑦ 「外」字脱か。註⑧参照。

⑧ 統後紀、正月庚子11、正六位上から外從五位下に昇叙。

⑨ 統後紀、正月辛丑12、「外從五位下山代宿禰氏益為豐前介」。

⑩ 符宣抄、正月廿七日右大臣宣の奉者（大外記名草安成）。

⑪ 底本「十一日」につくる。尊經閣本によって改めた。

⑫ 統後紀、正月辛丑12、任官記事あり。

⑬ 尊經閣本ではここに、「朝原良道（正月十一日任 元少史）なる記事を掲げ、欄外に「本マ、不、〇」と註記を施すが、翌十一年条と重複している。本稿では、底本の校訂に従って除いた。なお中野高行氏前掲「尊經閣文庫所藏『外記補任』の補訂」（IV、九八頁）参照。なお本稿で引く中野氏の説は、特に断らない限り右論考による。

⑭ 統後紀、二月己巳10、任官記事あり。

校註・外記補任（笠井純一）

二六

〔承和〕
同十一年

大外記從五位下山田古嗣

外從五位下名草安成 正七叙^①
十一任遠江介^②

賀茂弟峯 正十一任

少外記忠宗宗主

〔本マ、不、〕^③朝原良道 正月十一日任^④
元左少史^②

同十二年

大外記從五位下山田古嗣

賀茂弟峯

少外記忠宗宗主

朝原良道

同十三年

大外記從五位下山田古嗣 正月十三日任阿波介^⑤

賀茂弟峯

朝原良道 二月十日轉

少外記忠宗宗主

山田春城 二月十一日兼備中權少目 策^⑦

同十四年

大外記賀茂弟峯

朝原良道^⑧少外記山口豐道 十二月任 元右少史^⑨
承和十二年 八右少史^⑩

山田春城

^①統後紀、正月庚寅07、正六位上から外從五位下に昇叙。^②統後紀、正月甲午11、任官記事あり。但し四位以上を記し「云々」と略す。^③「本マ、不、」を尊經閣本により補った。この註記は墨線で囲まれ、「少外記忠宗宗主」の上部余白に記されるが、前年条を参照するに、本来は朝原良道の記事にかかわるものと考えられるので、ここに示した。前頁註^⑬参照。^④底本は「正月十一任」につくる。尊經閣本で「日」字を補った。^⑤統後紀、正月乙卯13「從五位下山田宿祢古嗣為阿波介」。文実、仁寿三年十二月丁丑21同人卒伝「（承和）十三年出為阿波介。政績有声。阿波。美馬兩郡。常罹旱災。古嗣殊廻方略。築陂蓄水。賴其灌漑。人用溫給」。『康富記』文安四年十二月十三日辛未「大外記山田古嗣。承和……十三年正月十三日。任阿波介（叙留以後十ヶ年）」。^⑥統後紀、二月壬午11、任官記事あり。^⑦文実、天安二年六月己酉20同人卒伝「承和十二年夏対策。下科。明年春拜少外記。備中權少目如故」。右文に従えば、本条「二月十一日」の次に、「任」字を補うべきか。^⑧符宣抄、正月廿九日・三月九日左大臣宣、

六月九日大納言藤原朝臣良房宣の奉者（大外記朝原良道）。

^⑨統後紀、閏三月庚辰15「右京人右少史從六位下山口忌寸豐道。薩摩目大初位下山口忌寸奥道。散位從八位上山口忌寸貞道。婦人山口忌寸周子。恒子等五人。並改忌寸賜朝臣焉。豐道等。後漢靈帝曾孫阿知王苗裔也」。^⑩統後紀、承和十二年六月癸未08、任官記事あり。

嘉祥元年

大外記從五位下朝原良道 正七叙^②

賀茂弟峯

少外記山口豐道

山田春城

同二年

大外記外從五位下朝原良道

從五位下賀茂弟峯 正七叙^③ 元少内記
十三日任越後介^④山口豐道 正十三日任^⑤少外記忠宗宗主 正中止職^⑥御室貞吉 正十三任^⑤山田春城^⑦ 本マ、
四月十六日任^⑧安野豐門^⑦ 本マ、
四十六任
七十一任^⑨同三年 三月廿一日踐祚^⑩ 廿四大外記外從五位下朝原良道^⑨外從五位下名草安成 正月十三日^⑩
更任

山口豐道

少外記山田春城

安野豐門^⑩仁壽元年 辛未
四月廿八日改元^⑪

大外記外從五位下名草安成

山口豐道^⑪

校註・外記補任（笠井純一）

①「外」字脱か。註②参照。

②続後紀、正月戊辰07、正六位上から外從五位下に昇叙。『康富記』文安四年十二月十三日辛未「大外記朝原良道。嘉祥元年正月七日。叙從五位下」。なお中野氏はこの註記（正七叙）を削除し（II、八四頁）、その理由を述べておられる（IV、九八頁）が従えない（資衡元年には、良道は既に大外記の任を離れている）。

③続後紀、正月壬戌07、正六位上から從五位下に昇叙。

④続後紀、正月戊辰13「從五位下賀茂朝臣弟岑為（越後）介」。

⑤続後紀、正月戊辰13、任官記事あり。

⑥宗主は承和十四年条から姿を消している。ここで「止職」とあるは不審。中野論文（IV、九八頁）参照。

⑦「本」字を、尊経閣本によって補った。

⑧山田春城は少外記として、承和十三年から見えている。本条に「任」とあるは不審。中野論文（IV、九八頁）参照。

⑨尊経閣本は本条のみ「豊道」につくり、「門歟」と左註する。また国史に現れる四例はすべて「豊道」につくる（註⑩他参照）。「豊道」に正すべきかとも思われるが、しばらく底本に従う。

⑩続後紀、七月壬子朔に任官記事あり。同五月乙丑12には「少内記從七位下安野宿

祢豊道」等を鴻臚館に遣わして、渤海国使に勅書及び太政官牒を授けたと見える。以上から少外記への任官は「四月十六日」ではなく、「七月一日」が正しいと思われる。中野論文（IV、九八頁）参照。

⑪文実、三月己亥21「仁明皇帝崩於清涼殿。于時皇太子下殿。御宜陽殿東庭休廬。左右大臣率諸卿及少納言左右近衛少将等。献天子神璽宝劔符節鈴印等。須臾駕輦車。移御東宮雅院。陣列之儀。一同行幸。但無警蹕」。

⑫『康富記』文安四年十二月十三日辛未には「大外記朝原良道。嘉祥……三年正月日辞（叙留以後二ヶ年）」と見えるが、文実、嘉祥三年三月庚子22に「……大外記外從五位下朝原宿祢良道等。六位以下四人。為装束司」とあり、良道の大外記辞任の時期に疑問が残る。

⑬続後紀、正月甲午15「外從五位下名草宿祢安成為大外記」。

⑭註⑨参照（以下、資衡三年まで同様）。

⑮文実、四月庚午28「改元仁壽。詔曰。……其改嘉祥四年。為仁壽元年」。

⑯本条以下、仁壽三年条まで、尊経閣本は「山田豊道」につくり、「口歟」等と註記する。底本の山口が正しい。前頁註⑨参照。

校註・外記補任（笠井純一）

少外記山田春城 十一廿一叙①
外從五位下

安野豐門

〔仁壽〕
同二年

〔改姓事〕

大外記外從五位下名草安成 十二月改姓滋野朝臣②

山口豐道

少外記外從五位下山田春城 正十五任駿河介③

安野豐門

坂上能文 正月十五日任④ 元左少史 文章生

同三年

大外記從五位下滋野安成 三月七日入内⑤

山口豐道

少外記安野豐門

坂上能文

齊衡元年^{甲戌}十一月廿九日改元⑥

大外記從五位下滋野安成⑦

從五位下菅原繼門 三月十四日任④ 更任

山口豐道

少外記安野豐門

坂上能文

同二年

大外記從五位下菅野繼門

滋野安成

少外記安野豐門⑩

① 文実、十一月甲午26、正六位上から外從五位下に昇叙。「廿六」を筆写の際「廿一」と誤ったものか。

② 文実、十二月庚午09「大外記外從五位下名草宿祢安成賜姓滋野朝臣」。

③ 文実、正月壬午15「外從五位下山田連春城為駿河介」。

④ 文実、正月壬午15、任官記事あり。

⑤ 文実、三月丁酉07「授大外記外從五位下滋野朝臣安成從五位下」。

⑥ 文実、十一月辛亥晦30「詔曰。……又改仁壽四年。為齊衡元年」。一日のずれ。

⑦ 符宣抄、仁壽四年十一月十五日右大臣宣の奉者（大外記滋野朝臣安成）。

⑧ 「菅野」の誤記であろう。

⑨ 文実、三月戊戌14「從五位下菅野朝臣繼門為大外記」。

⑩ 文実、二月丁卯17「詔右大臣正二位兼行左近衛大將藤原朝臣良房。參議從三位兼行中宮大夫讃岐守伴宿祢善男。從四位下行刑部大輔春澄朝臣善繩。正六位上行少外記安野宿祢豐道等。修国史」。

《次頁》

① 「外」字脱か。註②参照。

② 「脱落」文実、正月辛亥07、正六位上から外從五位下に昇叙（安野豐道）。

③ 文実、二月己丑21「是日。改元為天安元年。……詔曰。……可改齊衡四年為天安

坂上能文

同三年

大外記從五位下菅野繼門

滋野安成

少外記從五位下安野豐門^②

坂上能文

天安元年^{丁丑}二月廿日改元

大外記從五位下菅野豐門

滋野安成 遷相模介^④

「六位局務事」

賀茂峯雄 齊衡二年少内記 卅八
同三年正月大内記少外記外從五位下安野豐門^⑤ 正月十四日任下總介^⑥外從五位下坂上忌寸能文 正月七日叙^⑦
廿三日任越後介^⑧

廣宗安人 正月十四日任 四十一

秦安雄 二月十六日 元右少史 五十三
齊衡三一年右少史同二年^⑨八月廿七日踐祚^⑩ 九大外記從五位下菅野繼門 二月十六日任備前權守^⑪

「始權大外記事」

權大外記從五位下滋野安成 正月十三日任 止相模介^⑫「權大外記局務事」^⑬

大外記賀茂峯雄 元但馬掾 四一策

多米弟益 正月任 元左大史
三月兼勘解由判官 五十一

少外記廣宗安人 四十二

秦安雄 五十四

元年」。一日のずれ。

^④文実、正月癸丑14「從五位下滋野朝臣安成爲(相模)介」。^⑤尊經閣本は「豐道」につくるが、底本の校訂に従って「豐門」とした。^⑥文実、正月癸丑14「外從五位下安野宿祢豐道爲(下總)介」。^⑦文実、正月丙午07、正六位上から外從五位下に昇叙。^⑧文実、二月辛卯23「外從五位下坂上伊美吉能文爲越後介」。本条、「二月」脱落かなお越後介については、三実、貞觀四年七月廿八日乙未に「左京人前越後介外從五位下坂上伊美吉能文」、同五年二月十日癸卯に「前越後介從五位下坂上宿祢能文爲權介」(國史大系は「越前後介」と誤植)などに見える。^⑨底本「広原」につくる。尊經閣本によって改めた。^⑩文実、正月癸丑14、任官記事あり。^⑪文実、二月甲申16、任官記事あり。^⑫底本、齊衡三「年」につくる。尊經閣本によって示した。^⑬尊經閣本、ここに「戊」の残画あり。^⑭文実、八月乙卯27「帝崩於新成殿。左右近衛少將率近衛等。陣於東宮直曹西方。大納言安倍朝臣安仁。率少納言近衛少將主鈴等。令資麿印櫛等。奉入直曹。公卿

於藏人所。議御葬事」。

三実、八月廿七日乙卯「文德天皇崩於冷然院新成殿。從五位上守左近衛少將兼行美濃介良岑朝臣清風。……各率將監將曹近衛等。陣於皇太子直曹。于時春宮帶刀舍人解陣退散。大納言正三位兼行右近衛大將民部卿陸奥出羽按察使安倍朝臣安仁。率從五位下守左近衛少將兼行備前權介坂上大宿祢當道。……將監已下。奉天子神璽宝劔節符鈴印等於皇太子直曹……」。

^⑮文実、正月己酉16「(從五位下)菅野朝臣繼門爲備前權介」。同月丙辰23「(從五位下)菅野朝臣繼門爲備前介」。權「守」は誤か。^⑯「官職秘抄」(群書類從五輯、五七九頁上段)に、「大外記。……權大外記例(安成)」と見える。^⑰「康富記」文安四年十二月十三日辛未「從五位下滋野安成。天安二年正月十三日。任權大外記」。一方、三実、十月廿六日癸丑は「從五位下行相模介滋野朝臣安成爲權大外記。相模介如故」とし、本条と矛盾する。なお安成が相模介であったことは、文実、三月丙子15等にも見える。^⑱「權大外記局務事」の註記は、尊經閣本では多米弟益の左に置かれるが、内容を勘案してここに示した。

貞觀元年^{己卯} 四月十五日改元^①

『權大外記從五位上事』

權大外記從五位下滋野安成 四月九日兼上野權介^③
十一月十九日叙從五位上^④

大外記賀茂峯雄

多米弟益

少外記廣宗安人^⑤

外從五位下秦安雄 十一月十九日叙^⑥ 大嘗會

貞觀二年

權大外記從五位上滋野安成 上野權介

大外記賀茂峯雄^⑦

外從五位下多米弟益^⑧ 十一月十六日叙^⑨ 朔旦
三年正月任山城介^⑩

鳴田善長 正十六任少^⑪
十一廿七轉^⑫

少外記外從五位下秦宿禰安雄 正十六任豐後介^⑬

廣宗安人^⑭

御室安常 十一廿七任 元大學大允

貞觀三年

權大外記從五位上滋野安成 上野權介

大外記賀茂峯雄^⑮

鳴田善長^⑯

少外記廣宗安人

御室安常^⑰

① 三実、四月十五日庚子「詔曰。……其改天安三年。以為貞觀元年」。

② 「從五位上」と正すべきか。叙位が当該年に見られる場合、他例は全て新位階を記す。

③ 三実、四月九日甲午「從五位下行大外記兼相模介滋野朝臣安成爲上野權介。大外記如故」。

④ 三実、十一月十九日庚午「（從五位下）權大外記兼上野權介滋野朝臣安成。……並從五位上」。『康富記』文安四年十二月九日丁卯「權大外記從五位下滋野安成。貞觀元年十一月十九日。叙從五位上（于時大外記二人六位也）。同十三日辛未「從五位下滋野安成。……貞觀元年十一月十九日。叙從五位上」。

⑤ 三実、正月廿八日乙酉「正六位上行少外記広宗宿禰安人。……為領渤海國客使」。但し同二月七日癸巳によれば辞退。

⑥ 三実、十一月十九日庚午「撤去悠紀主基兩帳。……（正六位上）少外記秦宿禰安雄。……並外從五位下」。

⑦ 符宣抄、十二月十日右大臣宣の奉者（大外記賀茂峯雄）。

⑧ 三実、四月廿九日己酉晦に、齋会行事司の一人として「大外記正六位上多米宿禰弟益」が見える。

⑨ 三実、十一月十六日壬辰（朔旦冬至）

……（正六位上）大外記多米宿禰弟益。……並外從五位下」。

⑩ 三実、三年正月十三日戊子「散位外從五位下多米宿禰弟益為（山城）介」。

⑪ 三実、正月十六日丁卯、任官記事あり。

⑫ 三実、十一月廿七日癸卯、任官記事あり。

⑬ 三実、正月十六日丁卯「外從五位下行少外記秦宿禰安雄為豐後介」。

⑭ 符宣抄、五月廿九日右大臣宣の奉者（少外記広宗安人）。

⑮ 『東大寺要録』卷三「御頭供養日記」の貞觀三年三月十三日丁亥に「外記賀茂峯雄」が見える。

⑯ 尊經閣本「山田」につくり、右傍に「鳴」と朱書。底本の校訂に従って示した。

⑰ 三実、三月十四日戊子に「少外記正七位下御室朝臣安常」らに勅して、東大寺無遮大会事を監修させたとある。また『東大寺要録』卷三「御頭供養日記」の貞觀三年三月十四日戊子にも見える。

〈次頁〉

① 貞觀「五」年に訂正すべし（中野論文IV、一〇〇頁、拙稿『日本後紀』の撰者と編纂の背景、『古代史論集』下、二九七頁、参照）。以下註⑫までは、全て「五年」の脚註である。

なお、貞觀四年条にかけるべき註として、

貞觀四年^①權大外記從五位上滋野安成^③大外記從五位下賀茂峯雄 正月職止^④從五位下嶋田善長 正七叙^⑤
十月任和泉守^⑥廣宗安人 二十轉^⑧伴興門 二十任^⑨ 元少監物少外記御室安常^⑩善淵愛成^⑪

貞觀五年

二月十日任^⑫
貞觀二年二月任讃岐少目^⑬
同三年十一月任大學大屬^⑭
同五年正月任 叙職^⑮ 卅二^⑯

貞觀六年

『遷任刑部大輔』

權大外記從五位上滋野安成 正十六任刑部大輔^⑰

『替澤田任權大外記事』

上毛野澤田 正月十六日任 元薩摩守^⑱

大外記廣宗安人

伴興門

御室安常 正十六轉^⑲少外記善淵愛成^⑳滋野恒蔭^㉑ 正十六任 元少内記^㉒菅原助道 正十六任^㉓

貞觀七年

『大外記三人爲六位事』

大外記伴興門

左の「大外記 賀茂峯雄」に関わるものがある。

★三実、正月七日丙子（外從五位下）大外記賀茂朝臣峯雄。……並從五位下。

★符宣抄、七月廿七日正三位中納言兼民部卿伴宿祢善男宣の奉者（大外記賀茂朝臣峯雄）。

②尊經閣本では「外記」と「滋野」の間に朱点を置き、右傍に『從五位上』と朱書するが、底本に従って示した。

③三実、貞觀五年三月卅日壬辰「以從五位上滋野朝臣安成。……為次侍從」。四月

十三日乙巳「賀茂齋内親王依例修禊事。弁史皆染弁官大死穢。勅遣從五位上行・大外記滋野朝臣安成。奉從行事」。

④三実、貞觀五年二月十六日己酉「散位從五位下賀茂朝臣峯雄為相模權介」。辞任はこれ以前、四年七月廿七日以後（註①参照）。

⑤三実、貞觀五年正月七日庚午「（正六位上）大外記嶋田朝臣善長。……並從五位下」。

⑥三実、貞觀五年二月十日癸卯「散位從五位下嶋田朝臣善長為和泉守」。「十月」は誤。

⑦符宣抄、貞觀五年五月廿六日右大臣宣に「施藥院別当大外記広宗安人」をして崇親院事を知らしむべし、と見える。

⑧三実、貞觀五年二月十日癸卯、任官記事あり。

⑨符宣抄、貞觀五年五月廿六日右大臣宣の奉者（少外記御室安常）。『政事要略』卷廿九（大系二〇三頁）に引く『西宮記』同五年十二月十八日条に、「少外記御室安常」が見える。

⑩符宣抄、貞觀五年五月廿七日右大臣宣の奉者（少外記善淵愛成）。『政事要略』卷廿九（大系二〇六頁）、貞觀五年十二月十八日丙子に「外記善淵愛成」と見える。

⑪三実、貞觀四年五月十三日庚辰「美濃国厚美郡人……讃岐少目從七位上六人部愛成。……等三人賜姓善淵朝臣。……」。

⑫底本「卅」につくる。尊經閣本で正した。

⑬底本は「此間闕落」と註する。尊經閣本で示した。

⑭三実、正月十六日癸卯「從五位上行大外記滋野朝臣安成為刑部大輔」。『康富記』

文安四年十二月十三日辛未「從五位下滋野安成。……（貞觀）六年正月十六日。任刑部大輔（權大外記。在官七ヶ年）。なお、註②参照。

⑮底本はこの朱書を沢田の左、安人の右に付す。尊經閣本に従って示した。

⑯底本・尊經閣本とも「沢田」につくる。前後の記事を参照して改めた。

⑰符宣抄、八月二日右大臣宣の奉者（權大外

御室安常

權大外記上毛野澤田

少外記善淵愛成

滋野恒蔭

貞觀八年

『無五位外記事』
大外記從五位下御室安常 正月七日叙^①
十三日任大監物^②

伴興門

菅野助道

正月十三日任^④
元内記

『從權大外記任肥後介』
權大外記從五位下上毛野澤田 二月十二日叙^⑤
同日任肥後介

⑥『恒蔭任權大外記事』
滋野恒蔭^⑦ 二月十三日轉^⑧

少外記善淵愛成

鳴田忠臣

二月十三日任^⑧
元越前權少掾五年 文章生

貞觀九年

大外記從五位下伴興門 正七叙^⑩
二月十一日遷勘解由次官^⑪

菅野助道

滋野恒蔭 二月十一日轉^⑫

少外記善淵愛成^⑬

鳴田忠臣

貞觀十年

大外記菅野助道 月日卒^⑭
『五十九才』

從五位下滋野恒蔭 正月七日叙^⑮
十六日任信乃介^⑯

記上毛野澤田。なお尊經閣本は「沢由」

につくるが、底本に従って正した。以下、貞觀八年条まで同様。

⑬三実、正月十六日癸卯、任官記事あり。

⑭符宣抄、正月廿九日右大臣宣の奉者（大外記御室安常）。

⑮符宣抄、八月二日右大臣宣に「以刑部大輔滋野朝臣安成。少外記善淵朝臣愛成等預造纂天皇系図大臣列伝事」と見える。

⑯符宣抄、六月四日右大臣宣の奉者（少外記滋野恒蔭）。

⑰「菅野」の誤りであろう（下文による）。

⑱三実、正月七日甲申（正六位上）大外記御室朝臣安常。……並從五位下。

⑲三実、正月十三日庚寅「從五位下行大外記御室朝臣安常為大監物」。

⑳符宣抄、七月十九日權大納言藤原朝臣（氏宗）宣の奉者（大外記菅野助道）。

㉑三実、正月十三日庚寅、任官記事あり。

㉒三実、二月十三日己未「權大外記正六位上上毛野朝臣沢田授從五位下。為肥前守」。『康富記』文安四年十二月九日丁卯「權大外記正六位上毛野沢田。貞觀八年十一月十二日。叙從五位下（于時大外記二人六位也）」。

⑥尊經閣本はこの朱書を欄外に記すが、底本に従ってここに示した。

⑦『外記宣旨』正月十三日大納言正三位兼行民部卿太皇太后宮大夫伴宿祢善雄宣の奉者に「少外記滋野」が見える清水潔

『外記宣旨』について『芸林』三二―四。

⑧三実、二月十三日己未、任官記事あり。

⑨三実、貞觀元年三月十三日己巳「渤海国副使周元伯願閑文章。詔越前權少掾從七位下鳴田朝臣忠臣飯為加賀權掾向彼。與元伯唱和。以忠臣能屬文也」。

⑩三実、正月七日戊申（正六位上）大外記伴宿祢興門。……並從五位下。

⑪三実、二月十一日辛巳「從五位下行大外記伴宿祢興門為勘解由次官」。

⑫『康富記』文安四年十二月九日丁卯「權大外記正六位上滋野恒蔭。貞觀九年二月十一日。轉大外記」。三実、二月十一日辛巳、任官記事あり。

⑬三実、八月廿九日乙未「美濃国厚見郡人……從六位下行少外記善淵朝臣愛成。改本居。隸左京職」。

⑭底本「オ」につくる。尊經閣本で正した。

⑮底本「外從五位下」につくる。尊經閣本で正した。

⑯三実、正月七日壬寅（正六位下）大外記滋野朝臣恒蔭。……並從五位下。『康富記』文安四年十二月九日丁卯「權大外記正六位上滋野恒蔭。貞觀……十年正月七

正六位上滋野恒蔭。貞觀……十年正月七

外從五位下善淵愛成 正七叙^① 十三日任^②

南淵興世 正月十三日任 元内藏少允

少外記嶋田忠臣

春澄魚水 正月十三日任 元少判事

貞觀十一年

大外記外從五位下善淵愛成

南淵興世^③

少外記從五位下嶋田忠臣 正七叙^④ 三十六任因幡權介^⑤

春澄魚水

大春日安守 二月十六日任 元左近將曹^⑥

貞觀十二年

大外記外從五位下善淵愛成

南淵興世

少外記春澄魚水

大春日安守

貞觀十三年

大外記外從五位下善淵愛成^⑦

從五位下南淵興世 正月七日叙^⑧ 廿九日任尾張守^⑨

春澄魚水 正廿九任

少外記大春日安守

滋野弘基 正廿九任^⑩ 元勘解由判官

貞觀十四年

大外記外從五位下善淵愛成^⑪ 六廿四兼播磨大掾

春澄魚水

日。叙從五位下。

①三実、正月十六日辛亥「從五位下行大外記滋野朝臣恒蔭為信濃介」。

②三実、正月七日壬寅「(正六位上)少外記善淵朝臣愛成。……並外從五位下」。

③三実、正月十六日辛亥「以外從五位下行少外記善淵朝臣愛成為大外記」。

④三実、四月十三日庚子に、貞觀格の撰者の一人として「大外記正六位上臣南淵朝臣興世」が見える。貞觀格序文(類聚三代格、大系本四頁)にも同様の文あり。

⑤三実、正月七日乙丑「(正六位上)少外記嶋田朝臣忠臣。……並從五位下」。

⑥三実、二月十六日甲辰「從五位下行少外記嶋田朝臣忠臣為因幡權介」。

⑦三実、二月十六日甲辰、任官記事あり。

⑧三実、二月十六日甲辰、任官記事あり。

⑨三実、二月十六日甲辰、任官記事あり。

⑩符宣抄、二月十五日大納言藤原卿(基經)宣の奉者(大外記善淵朝臣愛成)。

⑪「菅家文章」卷十の「為大學助教善淵朝臣永貞請解官侍母表」(貞觀十四年)に

「臣弟少外記愛成」と見える。如何。

①三実、六月廿四日癸亥「除目十三人」。

△次頁▽

①中野氏「尊經閣文庫所藏『外記補任』の補訂再考」(『史学』五七一、一六二頁)は、尊經閣本によって「正廿六」と読まれたが、尊經閣本の筆者は「六」字の第一画を第二画に接して記すのが常であるところが、この箇所では第一画と第二画が平行に記されているので、底本に従って「廿二日」と判読した。但し、尊經閣本が「六」を「二」と誤記した可能性は高い。

②三実、正月廿六日丁酉「以正六位下行少外記大春日朝臣安守為存問渤海客使。以少内記菅原朝臣道真丁母憂去職也」。三月十四日甲申「詔存問渤海客使大春日朝臣安守。美務連清名。並兼領客使」。

少外記大春日安守 正廿二日爲存問渤海客使^①

滋野弘基

貞觀十五年

大外記外從五位下善淵愛成 播磨大掾

從五位下春澄魚水 正月七日叙^③
十三日任備後介^④

大春日安守 正月十三日任^⑤
④

少外記滋野弘基

鳴田良臣^⑥ 正月十三日任^④ 元加賀掾一年
文章生 卅二

貞觀十六年

大外記外從五位下善淵愛成 播磨大掾
正月十三日任山城介^⑦

外從五位下大春日安守 正月七日叙^⑧
十五日任武藏權介^⑨

鳴田良臣 正月十五日任^⑨

滋野弘基 正月十五日任^⑨

少外記興世貞町^⑩ 元筑後權掾四年 正月任 六十

忠宗是行 正月十五日任^⑨ 元但馬掾
文章生

貞觀十七年

大外記從五位下滋野弘基 二月七日叙^①

鳴田良臣

少外記興世貞町

・忠宗是行

貞觀十八年 十一月廿九受禪^⑫
九

大外記從五位下滋野宿禰弘基 正月十四日叙^④
任因幡介

四月十三日壬子「存問渤海客使少外記大春日朝臣安守等。開大使楊成規所責啓牒函。詰問違例之由。問答狀。及記錄安守等向加賀國途中消息。馳駟奏上」。

五月十五日甲申「領（渤海）客使大春日安守等。与郊勞使。共引渤海國入親大使……等廿人入京。安置鴻臚館」。

③三実、正月七日癸酉、任官記事あり。但し四位以上のみ記し「云々。卅九人」と略す。

④三実、正月十三日己卯、任官記事あり。但し四名のみ記し「云々。卅三人」と略す。

⑤底本「十」字脱落。尊經閣本で正した。

⑥符宣抄、五月廿七日宣旨に「少外記鳴田良臣仰云」と見える。

⑦三実、貞觀十七年四月廿五日丁丑に「從五位下行山城權介善淵朝臣愛成」が見える。「權」字脱か。

⑧三実、正月七日戊辰、叙位記事あり。但し四位以上を記し「云々」と略す。

⑨三実、正月十五日丙子、任官記事あり。但し三名のみ記し「云々」と略す。

⑩符宣抄、七月廿三日宣旨に「少外記興世貞町仰云」と見える。

⑪「弘基」は貞觀十三年条から登場するが、三実には一度も名が見えず、「二月七日叙」の対応記事も見出せない。しかし、

このあたりの三実には記事の抄録が殊に目立つから、誤りとは認定できない。

⑫底本「九日」につくる。尊經閣本で正した。

⑬三実、十一月廿九日壬寅「皇太子出自東宮。駕牛車。詣染殿院。是日。天皇讓位於皇太子。勅右大臣從二位兼行左近衛大將藤原朝臣基經。保輔幼主。撰行天子之政。如忠仁公故事。……皇太子受天子神璽宝劍。御鳳輦。歸於東宮。文武百官扈從如常儀」。

同、陽成即位前紀「十八年十一月廿九日壬寅。受讓為帝。時年九歲。是日。出自染殿院。御鳳輦。歸東宮。百官供奉如常。諸衛警陣。異常嚴密」。

⑭三実、正月十四日壬辰、任官記事あり。但し一名のみ記し「云々卅五人」と略す。

《次頁》

①符宣抄、十月廿日右大臣宣の奉者（大外記鳴田朝臣良臣）。

②「康富記」文安四年十二月十三日辛未「大外記鳴田良臣。貞觀十八年正月日。叙從五位下」。三実、正月七日乙酉に叙位記事あり。但し一名のみ記し「云々五十五人」と略す。

③三実、四月十六日丁亥「詔曰。……其改貞觀十九年。為元慶元年。……」。

從五位下嶋田良臣^① 正月叙^②

少外記興世貞町

忠宗是行

元慶元年 丁酉 四月十六日改元^③

大外記從五位下嶋田朝臣良臣^④

外從五位下忠宗是行 正月十五日任^⑤
十一月廿二日叙^⑥

少外記外從五位下興世貞町 正月五日叙^⑦
廿九日任安木介^⑧

菅野有風^⑨ 正月廿九日任 元右少史
同日任二人

大春日安名^⑩ 正月廿九日任 元勘解由判官

元慶二年

大外記從五位下嶋田良臣^⑪

外從五位下忠宗朝臣是行 正月十一日任出羽介^⑫

紀有綱^⑬ 正月十一日任 元圖書助

少外記菅野有風^⑭

大春日安名

淡海有守 正月任^⑮ 元右近將曹

元慶三年

大外記從五位下嶋田良臣^⑯

從五位下紀有綱 正月七日叙^⑰ 主殿權助

外從五位下菅野有風^⑱ 正月十一日任^⑲
十一月廿五日叙^⑳

少外記大春日安名

淡海有守 正月十一日任^㉑

④符宣抄、五月十一日右大臣宣の奉者(大外記嶋田朝臣良臣)。

⑤三実、正月十五日丁亥「除目卅五人」。

⑥類史一〇一叙位、十一月廿一日戊午「(正六位上)左兵衛府生大外記忠宗朝臣是行。……並外從五位下」。

⑦類史一〇一叙位、正月三日乙亥「(正六位上)少外記興世朝臣貞町。……並外從五位下」。

⑧底本「十九日」につくる。尊経閣本で正した。

⑨三実、元慶二年四月廿二日丁亥「以外從五位下行安芸介興世朝臣貞町為山城權介」。

⑩「有風」は三実には見えない。但し同書、元慶三年十一月廿五日庚辰によれば「大外記正六位上菅野朝臣惟肖」が從五位下に昇叙しており(註②参照)、本書元慶三年条の「有風」註記に符合する。有風は「惟肖」の誤りであろうか。

⑪三実、二月三日乙巳「以少外記正六位上大春日朝臣安名。……為存問渤海客使」。三月十一日壬子「以存問渤海客使正六位上行少外記大春日朝臣安名。……為兼領客使」。四月十八日己丑「存問兼領渤海客使少外記大春日朝臣安名等写渤海国王啓并中台省牒。馳駢上奏。……」。

⑫文実、序文「至元慶二年。更勅……等」。

與前修史者……從五位下行大外記嶋田朝臣良臣等。專精実録。……」。

三実、二月廿五日辛卯「於宜陽殿東廂。令從五位下行助教善淵朝臣愛成。始読日本紀。從五位下行大外記嶋田朝臣良臣為都講。右大臣已下參議已上聽受其說」。

同、元慶六年八月廿九日戊辰「於侍從局南右大臣曹司。設日本紀竟宴。先是。元慶二年二月廿五日。於宜陽殿東廂。令從五位下行助教善淵朝臣愛成読日本紀。從五位下行大外記嶋田朝臣良臣。……通為都講。……」。

同、八月廿五日戊子「是日。皇弟貞保親王於披香舍始読蒙求。……從五位下行大外記嶋田朝臣良臣。正六位上行少内記菅野朝臣惟肖等數人。令賦詩。……」。

⑬三実、正月十一日丁未「外從五位下行大外記忠宗朝臣是行為出羽介」。

⑭「有綱」は三実には見えない。但し同書、元慶三年正月七日丁酉によれば、正六位上「大外記紀朝臣有綱」が從五位下に昇叙しており(註⑨参照)、本書元慶三年条の「有綱」註記に符合する。有綱は「有総」の誤りであろうか。

⑮三実、正月十一日丁未、任官記事あり。

⑯三実、八月廿五日戊子(註⑫参照)に「少内記」と見える。如何。

⑰この註記次年度と重複。中野氏(IV、一〇

元慶四年

大外記從五位下 嶋田良臣^①外從五位下 菅野有風^②
正月十一日
任備後權介大春日安名^③
正月十一日任^②

少外記淡海有守

巨勢文宗^④
文章生^④ 正月十一日任^②
元越中掾

元慶五年

大外記從五位下 嶋田良臣^⑤
二月十五日兼加賀介外從五位下 大春日安名^⑥
二月十四日叙^⑦
任下總介淡海有守^⑦
二月十四日任

少外記巨勢文宗

山田時宗^⑧
二月十四日任^⑧ 元右少史
元慶二二右少史 同四正左少史

元慶六年

大外記從五位下 嶋田良臣^⑨
加賀介^⑨從五位下 淡海有守^⑩
正月七日叙^⑩
二月三日任安木介^⑩巨勢文宗^⑪
三月三日任^⑪山田時宗^⑫
八月十三日任^⑫

少外記大藏善行

二月三日任^⑬ 元土左權掾
高岳高常^⑬
八月十三日任^⑬ 元左少史天安十一文章得業生^⑭
元慶五二左少史^⑭
元秀^⑭

元慶七年

大外記巨勢文宗

外從五位下 山田時宗^⑮
正月七日叙^⑮
十一日甲斐介^⑮

○頁により「三年」を正とすべきか。

⑬ 符宣抄、十一月十四日右大臣宣の奉者
（大外記嶋田良臣）。文実、序文位署「元慶三年十一月十三日
……從五位下行大外記臣嶋田朝臣良臣」。⑭ 類史一〇一叙位、正月七日丁酉（正六位
上）大外記紀朝臣有總。……並從五位下。⑮ 「不」の頭書、底本になし。尊經閣本で
補った。⑯ 三実、正月十一日辛丑、任官記事あり。
但し一名のみ記し「云々。卅三人」と略
す。⑰ 類史一〇一叙位、十一月廿五日庚辰「大
外記正六位上菅野朝臣惟肖。……並外從
五位下」。

⑱ この註記前年度と重複。なお、註②参照。

⑲ 符宣抄、二月十六日右大臣宣の奉者（大外
記嶋田良臣）。⑳ 三実、正月十一日乙丑、任官記事あり。
但し二名のみ記し「云々。五十一人」と
略す。㉑ 底本「正月一日」につくる。尊經閣本で
正した。㉒ 符宣抄、十二月十三日大納言源多卿宣の
奉者（少外記巨勢文宗）。

㉓ 三実、二月十五日癸巳「除目五十三人」。

㉔ 「從五位下」の誤りか。註⑦参照。

⑦ 三実、二月十四日壬辰（正六位上）大外
記大春日朝臣安名等並從五位下。⑧ 底本「少史」につくる。尊經閣本で「左」
字を補った。⑨ 「康富記」天安四年十二月十三日辛未
「大外記嶋田良臣。……元慶六年二月十
五日。遷加賀介」。⑩ 類史一〇一叙位、正月七日庚戌（正六
位上）大外記淡海朝臣有守。大内記菅野
朝臣惟肖。……並從五位下。⑪ 三実、二月三日丙子、任官記事あり。但
し三名のみ記し「除目廿七人云々」と略
す。⑫ 符宣抄、八月廿二日右大臣宣の奉者（大外
記巨勢文宗）。⑬ 三実、九月十三日壬午に「大外記正六位上
巨勢朝臣文宗」が大座の穢について言上
したと見える。

⑭ 紀略、八月十三日壬子「任官」。

⑮ 符宣抄、八月廿二日右大臣宣に「少外記
大藏善行」をして日本紀竟宴事を行なわ
しむ、と見える。

⑯ 底本「天安」の次に「元脱歟」と註す。

⑰ 底本「才歟」と註す。尊經閣本によつて
示した。⑱ 類史一〇一叙位、正月七日甲戌「大外記
正六位上山田宿祢時宗。……並外從五位
下」。

嶋田惟上^① 正月任 元文章生

少外記大藏善行^② 正月一日兼任問渤海客使^③

高岳五常 元丹波掾 次左少史 策^④四十七^⑤

元慶八年 二月四日踐祚^④ 五十四^⑤

大外記從五位下嶋田惟上 十一月廿五日叙^⑥

從五位下巨勢文宗^⑦ 二月廿三日叙^⑧

少外記大藏善行^⑨

高岳五常^⑩

仁和元年乙 二月廿一日改元^⑪

大外記從五位下嶋田惟上 正月十六日任土左守^⑫

外從五位下巨勢文宗 正月十六日任河内介^⑬

大藏善行^⑭ 正月十六日任^⑮

高岡五岳^⑯ 正月十六日任^⑰

少外記紀有世^⑱ 正月十六日任 元越前掾 二年^⑲ 進士^⑳

菅原宗岳^㉑ 正月十六日任 元巡察彈正少忠 進士^㉒

仁和二年

大外記大藏善行^㉓ 六月十九日任備前大目^㉔

外從五位下高岳五常 十六日任筑後介^㉕

菅原宗岳^㉖ 正月十六日任 同三月任大學助^㉗

少外記紀有世^㉘ 正月十六日任^㉙

紀長谷雄^㉚ 元讃岐掾 策^㉛卅二

⑬三実、正月十一日戊寅、任官記事あり。但し一名のみ記し「除目卅三人」と略す。

①符宣抄、十二月十日右大臣宣の奉者(大外記嶋田惟上)。

②符宣抄、十二月十八日右大臣宣の奉者(少外記大藏善行)。

③三実、正月戊辰朔「是日。以正六位上行少外記大藏伊美吉善行。……為存問渤海客使」。二月廿一日戊午「是日。存問渤海客使大藏善行。……並為兼領客使」。

三月八日甲戌「存問兼領渤海客使少外記大藏善行。……等進発。……」。四月廿八日甲子「……領(渤海)客使少外記大藏善行等引客徒入鴻臚館」。

④三実、二月四日乙未「……是日。天皇出自綏綺殿。遷幸二条院。……於是神璽宝鏡領等。付於王公。即日。親王公卿步行。奉天子神璽宝鏡領等今上帝於二条宮。百官諸仗圍繞相從。二条院。与二条宮。相去東行數百步」。同、光孝紀、二月四日乙未にも踐祚關係記事が見える。

⑤三実、光孝即位前紀「……天長八年生天皇於東京六条第。……」。

⑥類史一〇一叙位、十一月廿五日壬午「(正六位上)大外記嶋田朝臣惟上。……並從五位下」。

⑦「外」字脱か。註⑨参照。

⑧符宣抄、九月九日右大臣宣・十一月廿三日左大臣宣の奉者(大外記巨勢朝臣文宗)。

⑨三実、二月廿三日甲寅「大外記正六位上巨勢朝臣文宗。……並外從五位下」。

⑩三実、五月廿九日戊子に「少外記大藏善行」等をして、太政大臣の職掌を奏議せしめたと見える。

符宣抄、四月廿七日右大臣宣・五月九日右大臣宣・五月十六日大納言藤原朝臣良世宣の奉者(少外記大藏善行)。

⑪符宣抄、七月十七日右大臣宣の奉者(少外記高岳五常)。

⑫三実、二月廿一日丁未「是日。詔曰。……其改元慶九年。為仁和元年」。

⑬三実、正月十六日壬申「從五位下行大外記嶋田朝臣惟上為土左守」。

⑭三実、正月十六日壬申「外從五位下行大外記巨勢朝臣文宗為河内介」。

⑮三実、十月三日甲寅に、これより先「大外記大藏朝臣善行」が子嶋山寺灯分稻のことを解したと見える。

符宣抄、三月廿一日左大臣宣・七月二日中納言從三位兼左衛門督源朝臣能有宣九月八日中納言在原朝臣行平宣の奉者(大外記大藏善行)。

⑯三実、正月十六日壬申条に任官記事あり。

⑰符宣抄、二月廿五日右大臣宣・三月五日民部卿中納言(行平)宣・十月十三日右

仁和三年 八月廿六日踐祚^① 廿一

大外記從五位下菅原宗岳^② 十一月七日叙

外從五位下大藏善行^③ 正月七日叙^④

少外記紀有世^⑤

紀長谷雄^⑥

大臣宣の奉者（大外記高岳五常）。

^⑬符宣抄、九月十四日中納言在原朝臣行平宣の奉者（少外記紀有世）。

^⑭底本「四十」につくる。尊經閣本によって示した。

^⑮符宣抄、十二月十日大納言兼右大將（良世）宣の奉者（少外記菅原宗岳）。

^⑯三実、元慶八年六月廿日己酉に「判官巡察彈正正六位上菅原朝臣宗岳」らを太宰府に派遣し、筑後守都御西殺害の事を調べさせたと見える。

^⑰符宣抄、二月十五日中納言在原朝臣（行平）宣・五月廿六日中納言在原卿宣・六月廿九日右大臣宣・七月三日右大臣宣・九月廿三日中納言藤原山陰卿宣の奉者（大外記大藏善行）。

^⑱三実、六月十九日丁卯、任官記事あり。

^⑲三実、正月七日丁亥「大外記正六位上高丘宿祢五常……並外從五位下」。

^⑳三実、正月十六日丙申「外從五位下行大外記高丘宿祢五常為筑後介」。二月廿一日辛未「外從五位下行筑後介高丘宿祢五常為（紀伊）介」。

^㉑底本「三年」につくる。尊經閣本によって正した。

^㉒符宣抄、六月七日右大臣宣の奉者（大外記菅原宗岳）。

^㉓三実、正月十六日丙申、任官記事あり。

^㉔符宣抄、六月二日右大臣宣・六月廿八日右大臣宣・十月十九日中納言從三位藤原朝臣山陰宣の奉者（少外記紀有世）。

^㉕符宣抄、十月廿五日大納言藤原良世卿宣の奉者（少外記紀長谷雄）。

^㉖三実、元慶七年十二月廿七日己未に「文章得業生從八位上紀朝臣長谷雄叙位三階以对策得丁科也」と見える。

^㉗紀略、八月廿六日丁卯「立為皇太子。即日受天祚。年廿一。今日已二剋。光孝天皇晏駕于仁壽殿。仰警固三關諸衛等。太政大臣率諸公卿。令資天子神靈寶劍等。奉皇太子直曹。即日補藏人頭以下……」。

^㉘符宣抄、五月七日大納言藤原良世卿宣・九月十一日左大臣宣の奉者（大外記菅原宗岳）。

^㉙符宣抄、十一月五日右大臣宣の奉者（大外記大藏善行）。

^㉚三実、正月七日辛巳「（正六位上）大外記大藏伊美吉善行……並外從五位下」。

『康富記』文安四年十二月十三日辛未「大外記大藏善行。仁和三年正月七日。叙外從五位下」。

^㉛符宣抄、二月十日中納言從三位藤原朝臣山陰宣の奉者（少外記紀有世）。

^㉜符宣抄、六月十日日中納言從三位源朝臣能有宣の奉者（少外記紀長谷雄）。